

2020年12月期 第1四半期業績 説明会資料

The AGC logo is displayed in a white box on the right side of the slide. It consists of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned at the top right corner of the letter 'G'.

AGC株式会社

2020年5月18日

Your Dreams, Our Challenge

■ 2020年12月期 第1四半期業績	P.4
1. 業績のポイントと主要項目	P.5
2. セグメント別・地域別の状況	P.13
■ 2020年通期業績見通し	P.19
付属資料	P.25

2020年12月期第1四半期：

(前年同期比)

売上高	3,575億円	(▲41億円)
営業利益	223億円	(+15億円)

- 自動車用および建築用ガラス事業ではCOVID-19の影響により、業況が悪化したものの、電子部材や液晶用ガラス基板、ライフサイエンス事業の好調が上回り前年同期比増益
- COVID-19影響は、売上高 ▲100億円、営業利益▲30~40億円

2020年12月期第2四半期見通し：

- 建築用および自動車用ガラス事業においてCOVID-19の影響を大きく受ける見込み

2020年12月期 第1四半期業績

1. 業績のポイントと主要項目

2020年12月期 第1四半期業績

(億円)

	FY2019 1Q	FY2020 1Q	増減	主な変動要因 (+)増加要因 (-)マイナス要因
売上高	3,616	3,575*	▲ 41	(+)電子部材、液晶用ガラス基板、ライセンス製品の出荷増加 (-)自動車用ガラスの販売減少 建築用ガラス（日本を除く地域）および液晶用ガラス基板の製品販売価格下落 ユーロ安
営業利益	209	223	+15	(+)第11世代向け液晶用ガラス基板新設備のフル稼働寄与 (-)欧州の建築用ガラス製造設備の稼働調整に伴う製造原価悪化
税引前利益	235	159	▲ 75	(-)その他費用における為替差損計上
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	156	135	▲ 21	
為替レート（期中平均）				
JPY/USD	110.20	108.92		
JPY/EUR	125.15	120.11		
原油(Dubai,期中平均)				
USD/BBL	63.53	50.74		

* うち、為替差影響は▲58億円、連結範囲変更の影響は+39億円

セグメント別業績 前年同期比較

(億円)

	FY2019		FY2020		増減	
	1Q		1Q			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス	1,861	35	1,693	▲ 26	▲ 168	▲ 61
電子	594	25	692	89	+ 98	+ 64
化学品	1,127	144	1,142	151	+ 14	+ 7
セラミックス・その他	185	6	197	9	+ 12	+ 4
消去	▲ 152	▲ 1	▲ 150	0	+ 3	+ 1
連結合計	3,616	209	3,575	223	▲ 41	+ 15

- 1Qは主に中国の自動車用ガラスで影響
- 3月中旬以降、建築用ガラス・自動車用ガラスでの稼働調整が本格化

AGCグループへの影響

ガラス

(建築用ガラス)

- 日本・アジア：日本の生産、出荷状況は概ね計画通り。アジアは3月以降、経済の停滞・需要の減少が本格化し、稼働調整を実施。
- 米州：北米は3月から出荷が減少し、3月末以降稼働調整を実施。南米は3月末から出荷が減少。
- 欧州：3月以降出荷減少が顕著となり、3月中旬以降大幅な稼働調整を実施。

(自動車用ガラス)

- 中国：2月～3月中旬にかけて大幅な稼働調整を実施。
- 日本・アジア（中国を除く）：1Qは影響軽微のため稼働調整は実施せず。
- 欧米：3月下旬から大幅な稼働調整を開始。

電子

- 液晶ディスプレイ用ガラス基板、半導体関連部材、オプトエレクトロニクス用部材は出荷に影響なし。
- ディスプレイ用特殊ガラスは、スマートフォンの販売台数減少の影響を受け、大幅な出荷減となった。

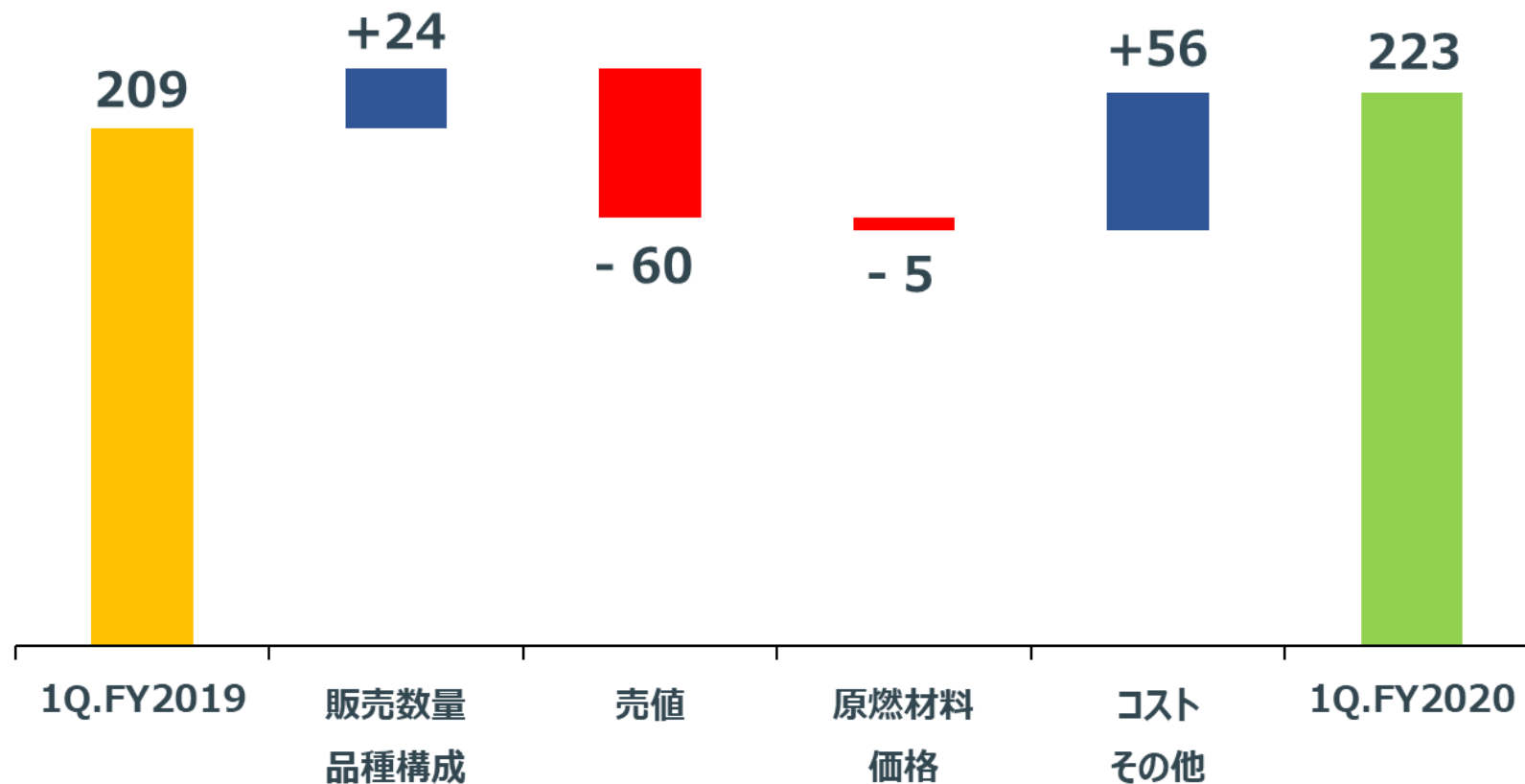
化学

- 稼働への影響なし。

営業利益増減要因分析(1Q.FY2020 vs. 1Q.FY2019)

前年同期比 15億円増益

(億円)



(億円)

	2019/12	2020/3	増減
現金及び現金同等物	1,138	1,634	+ 496
棚卸資産	2,912	2,900	▲ 12
有形固定資産・無形 資産及びのれん	13,516	13,171	▲ 345
その他	5,788	5,057	▲ 731
資産合計	23,354	22,763	▲ 591
有利子負債	6,028	6,501	+ 472
その他	4,500	4,317	▲ 182
負債の部	10,528	10,818	+ 290
親会社の所有者に 帰属する持分合計	11,571	10,731	▲ 840
非支配持分	1,255	1,214	▲ 41
資本の部	12,826	11,945	▲ 881
負債及び資本合計	23,354	22,763	▲ 591
D/E比率	0.47	0.54	

営業債権 ▲252億円
金融資産 ▲292億円
為替差影響 ▲763億円

	1Q	
	FY2019	FY2020
税引前利益	235	159
減価償却費及び償却費	335	366
運転資金増減	▲ 142	▲ 11
その他	130	129
営業活動によるCF	558	644
投資活動によるCF	▲ 479	▲ 494
フリーキャッシュフロー	79	150
有利子負債増減	213	523
支払配当	▲ 133	▲ 133
その他	▲ 7	18
財務活動によるCF	73	408
現金等に係る換算差額	8	▲ 62
現金等の増加額	161	496

	1Q (億円)		
	FY2019	FY2020	
設備投資額	426	517	【主な設備投資案件】 ・中国車載ガラス投資（ガラス） ・ディスプレイ窯修繕（電子） ・中国G11投資（電子） ・合成医薬増強（化学品） ・フッ素増強（化学品） など
ガラス	164	133	
電子	91	176	
化学品	167	208	
セラミックス・その他	5	0	
消去	▲ 0	▲ 0	
減価償却費	335	366	【主な減価償却費増加要因】 ・アサヒマスケミカル 発電所 （19Q2稼働開始） など
ガラス	126	130	
電子	112	120	
化学品	87	105	
セラミックス・その他	10	11	
消去	▲ 0	▲ 0	
研究開発費	111	111	

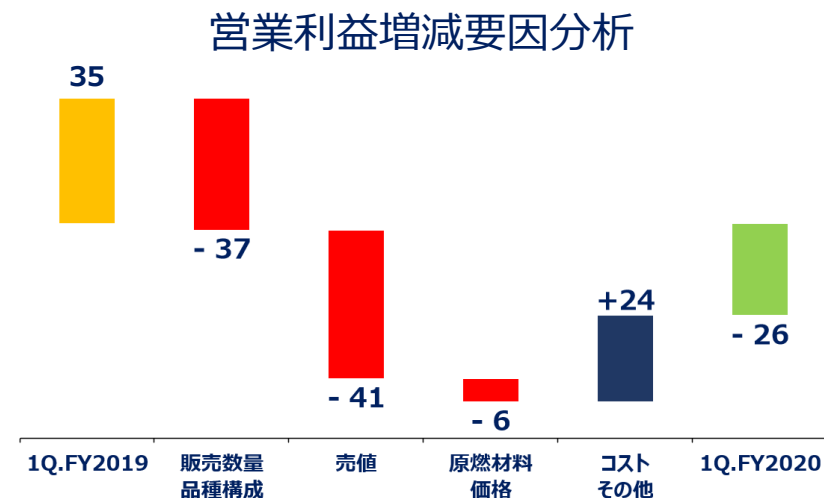
※FY2020通期の設備投資、減価償却費、研究開発費は未定とする

2. セグメント別・地域別の状況

(億円)

	1Q		増減
	FY2019	FY2020	
売上高	1,861	1,693*	▲ 168
建築用ガラス	857	801	▲ 55
自動車用ガラス (セグメント間)	1,001	889	▲ 112
	4	3	
営業利益	35	▲ 26	▲ 61

* うち、為替差影響は▲46億円、連結範囲変更の影響は+1億円



〔売上高〕 減収

建築用ガラス

- 欧州を中心とした市況悪化、ユーロ安の影響で減収

自動車用ガラス

- 中国を主として各地域で自動車生産台数が減少し、当社グループの出荷減、円高の影響もあり減収

〔営業利益〕 減益

建築用ガラス

- 欧州での建築用ガラス製造設備の稼働調整による製造原価悪化により減益

自動車用ガラス

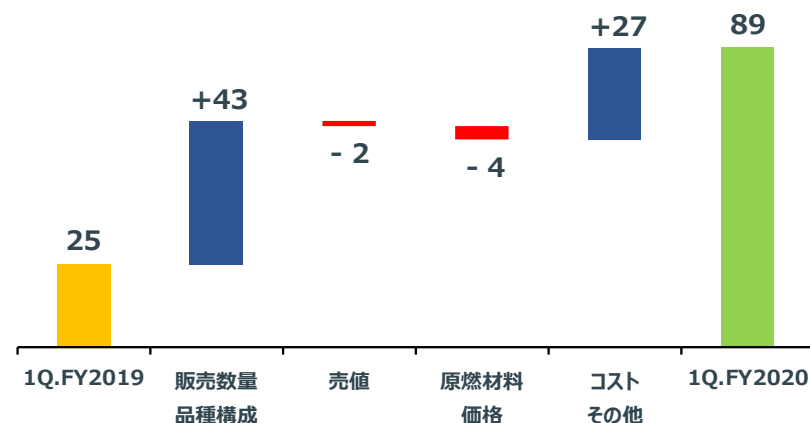
- 自動車用ガラスの国内における生産性改善
- 北米における減損損失計上による減価償却費減

(億円)

	1Q		増減
	FY2019	FY2020	
売上高	594	692*	+ 98
ディスプレイ	398	433	+ 35
電子部材 (セグメント間)	160	238	+ 77
	36	22	
営業利益	25	89	+ 64

* うち、為替差影響は▲1億円、連結範囲変更の影響は+15億円

営業利益増減要因分析



〔売上高〕増収

ディスプレイ

- 液晶用ガラス基板の出荷数量は増加、価格は下落幅縮小
- ディスプレイ用特殊ガラスはDragontrail®出荷減少

電子部材

- 半導体関連部材の出荷が増加
- Taconic社プリント基板材料事業等の新規連結が寄与

〔営業利益〕増益

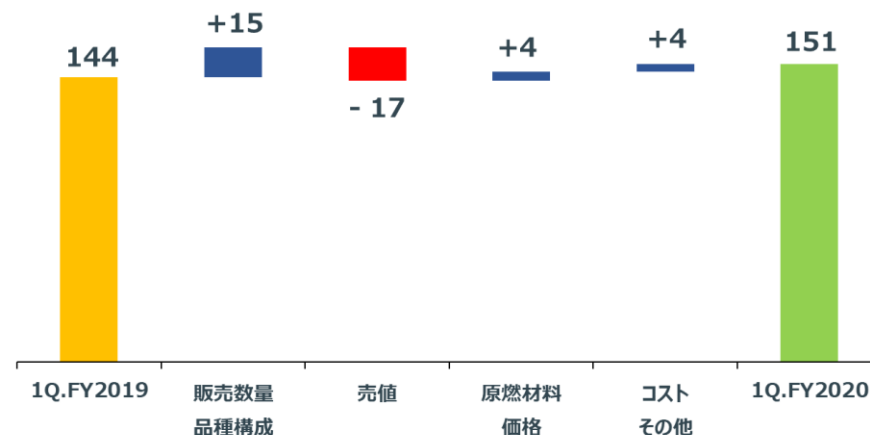
- 第11世代向け液晶用ガラス基板新設備のフル稼働が寄与
- 半導体関連部材の出荷が増加

(億円)

	1Q		増減
	FY2019	FY2020	
売上高	1,127	1,142*	+ 14
クロールアルカリ・ウレタン	705	695	▲ 10
フッ素・スペシャリティ	287	283	▲ 5
ライフサイエンス	132	160	+ 28
(セグメント間)	3	4	
営業利益	144	151	+ 7

* うち、為替差影響は▲10億円 連結範囲変更の影響は+22億円

営業利益増減要因分析



〔売上高〕増収

クロールアルカリ・ウレタン

- 東南アジアでの苛性ソーダの販売価格が下落

フッ素・スペシャリティ

- 半導体・航空機関連製品向けフッ素樹脂の出荷が減少

ライフサイエンス

- バイオ医薬品原薬の受託件数が増加
- Malgrat Pharma Chemicals社の新規連結が寄与

〔営業利益〕増益

- 東南アジアでの苛性ソーダの販売価格が下落
- 合成医薬関連製品の出荷が増加

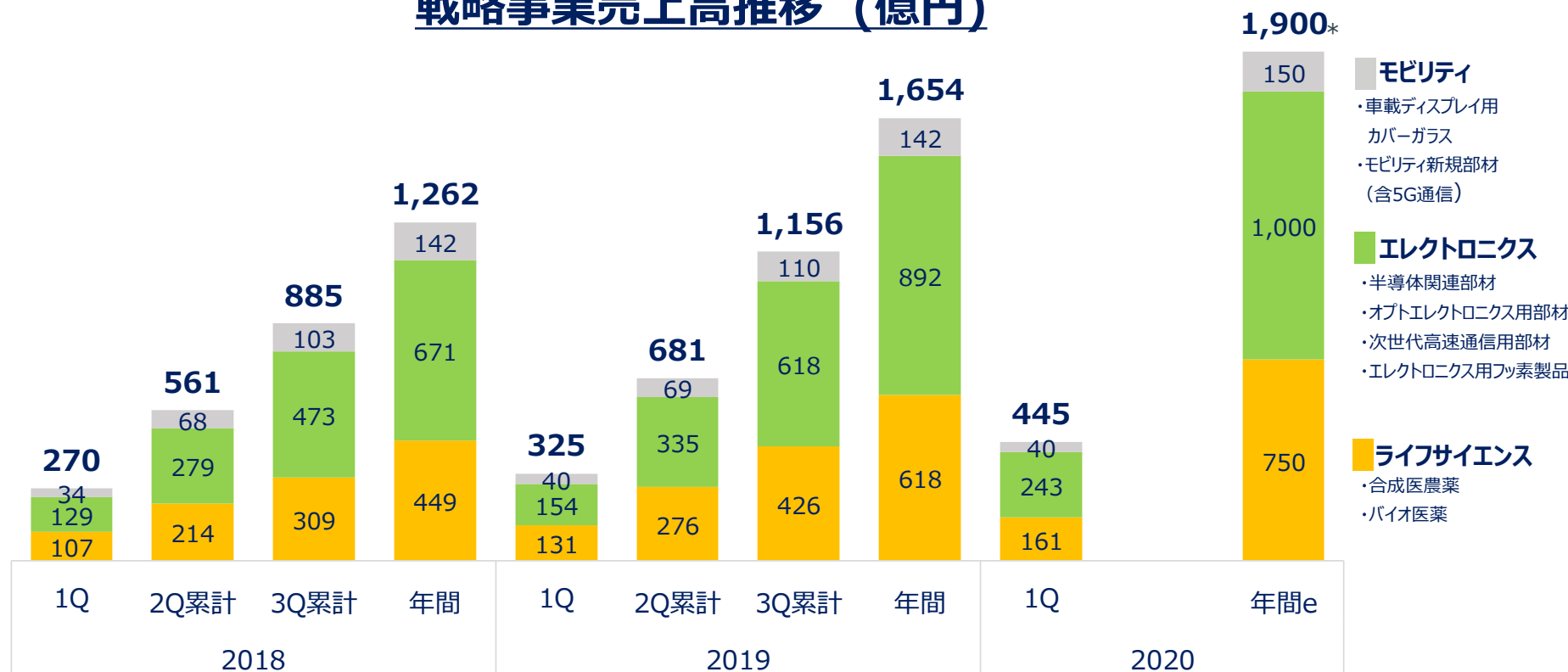
<営業利益構成比*>

	19/1Q	20/1Q
クロールアルカリ・ウレタン	6割	5割
フッ素・スペシャリティ	3割	3割
ライフサイエンス	1割	2割

*共通費用配賦前

COVID-19感染拡大の影響は限定的で順調に業績拡大

戦略事業売上高推移 (億円)



- モビリティ**
 - ・車載ディスプレイ用カバーガラス
 - ・モビリティ新規部材(含5G通信)
- エレクトロニクス**
 - ・半導体関連部材
 - ・オプトエレクトロニクス用部材
 - ・次世代高速通信用部材
 - ・エレクトロニクス用フッ素製品
- ライフサイエンス**
 - ・合成医薬
 - ・バイオ医薬

	2018	2019	2020
戦略事業営業利益	36	84	75
営業利益貢献比率	12%	20%	34%

* 2020年2月5日発表数値から見直しを行っています。

地域別業績 前年同期比較

	1Q		(億円) 増減
	FY2019	FY2020	
売上高	3,616	3,575	▲ 41
日本・アジア	2,341	2,375	+ 34
アメリカ	428	390	▲ 38
ヨーロッパ	847	810	▲ 37
営業利益	209	223	+ 15
日本・アジア	240	279	+ 38
アメリカ	21	8	▲ 14
ヨーロッパ	41	26	▲ 15
地域共通費用	▲ 94	▲ 89	+ 5

為替影響：
▲58億円

新規連結影響：
+39億円

2020年通期業績の見通し

2020年 通期業績見通し

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、業績に影響を与える未確定な要素が多いため、通期業績予想および配当予想は未定とする
- 合理的な予想が可能となった時点で改めて公表する
- 現在把握できる情報等に基づいた2020年上期業績予想は以下の通り

(億円)

	FY2019		FY2020 (2020年2月5日予想)		FY2020 (今回予想)
	上期	通期	上期	通期	上期
売上高	7,375	15,180	7,500	15,500	6,500
営業利益	415	1,016	500	1,200	250
税引前利益		762		1,070	
親会社の所有者に 帰属する当期純利益		444		690	
1株当たり配当 (円)	60	120	65	130	—
為替レート (期中平均)	JPY/USD	110.1	109.1	110.0	107.0
	JPY/EUR	124.3	122.1	120.0	117.6
原油 (Dubai,期中平均)	USD/BBL	65.4	63.5	60.0	40.0

未定

セグメント別の2Q売上高/営業利益見通し

(億円)

	FY2019 1-2Q		FY2020 1-2Qe		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
	ガラス	3,752	74	2,800	▲ 215	▲ 952
電子	1,246	60	1,400	170	+ 154	+ 110
化学品	2,285	262	2,200	280	▲ 85	+ 18
セラミックス・その他	404	20	400	15	▲ 4	▲ 5
消去	▲ 312	▲ 1	▲ 300	0	+ 12	+ 1
連結合計	7,375	415	6,500	250	▲ 875	▲ 165

各事業の現況（2020年5月18日時点）

- 中国での事業活動および欧州建築用ガラス加工工程の稼働は改善傾向
- 上記以外の複数事業で需要の減少およびお客様の生産調整の影響を受け出荷が減少
- ガラス事業への影響が特に大きく、大幅に収益が悪化傾向

ガラス	<p>（建築用ガラス）</p> <ul style="list-style-type: none">・日本・アジア：日本は今のところほぼ影響なし。アジアは経済停滞の影響から需要減が見られる。・米州：4月をボトムとして、5月から徐々に出荷は回復してくると想定している。南米は稼働調整を継続している。・欧州：需要が大幅に減少し、大幅な稼働調整を実施。5月からの段階的な欧州各国ロックダウン解除により、5月以降徐々に稼働は回復していくと想定している。 <p>（自動車用ガラス）</p> <ul style="list-style-type: none">・中国：稼働が回復し始め、5月には旧正月前の水準となっている。・日本・アジア（除く中国）：日本は4月下旬から稼働調整を開始し、現時点も継続している。タイ、インドネシアは4月から大幅な稼働調整を開始し、現時点も継続している。・欧米：4月は全ての拠点で大幅な稼働調整を実施。5月に入り一部拠点で稼働再開。
電子	<ul style="list-style-type: none">・液晶ディスプレイ用ガラス基板は現時点まで出荷に大きな影響は出ていない。・ディスプレイ用特殊ガラスは、中国での客先稼働回復に伴い、2Qから出荷の回復がやや見られる。・半導体関連部材、オプトエレクトロニクスは出荷、稼働とも大きな影響は見られない。
化学品	<ul style="list-style-type: none">・クロールアルカリ・ウレタンは、アジア各国のロックダウン影響等から出荷減および売値の下落が見られる。・フッ素・スペシャリティは、自動車、航空機や建設向けなど一部製品の出荷減が見られる。・ライフサイエンスは需要堅調で出荷、稼働とも大きな影響は見られない。

1. 感染症拡大防止の取り組み

- 従業員およびその家族、取引先等を含めたグループ内外のステークホルダーの安全を最優先
- 生産活動を継続する拠点では感染防止策を徹底

2. 手元流動性の確保

- 4月末までに銀行借入等により十分なキャッシュを確保済み
(前年12月末比で2,000億円程度を積み増し)

3. 投資・経費の削減

- 戦略事業を中心とした成長事業への投資は継続実施
- 上記以外の投資および経費については極力削減する

4. 事業活動

<ライフサイエンス>

- COVID-19関連でアメリカで治療薬としての治験も開始されたCytoDyn社のLeronlimabの製造やAdaptVacのワクチン開発・製造を受託、その他COVID-19関連のCDMOを複数受託に向け進行中
- AGC Biologics社が欧州のCOVID-19 ワクチン開発コンソーシアムに参加

<その他>

- 消毒液や飲料水用消毒剤に使用される次亜塩素酸ソーダを供給
- 飛沫感染防止パーティション用ポリカーボネート樹脂の生産体制を増強

など



5. 地域社会に

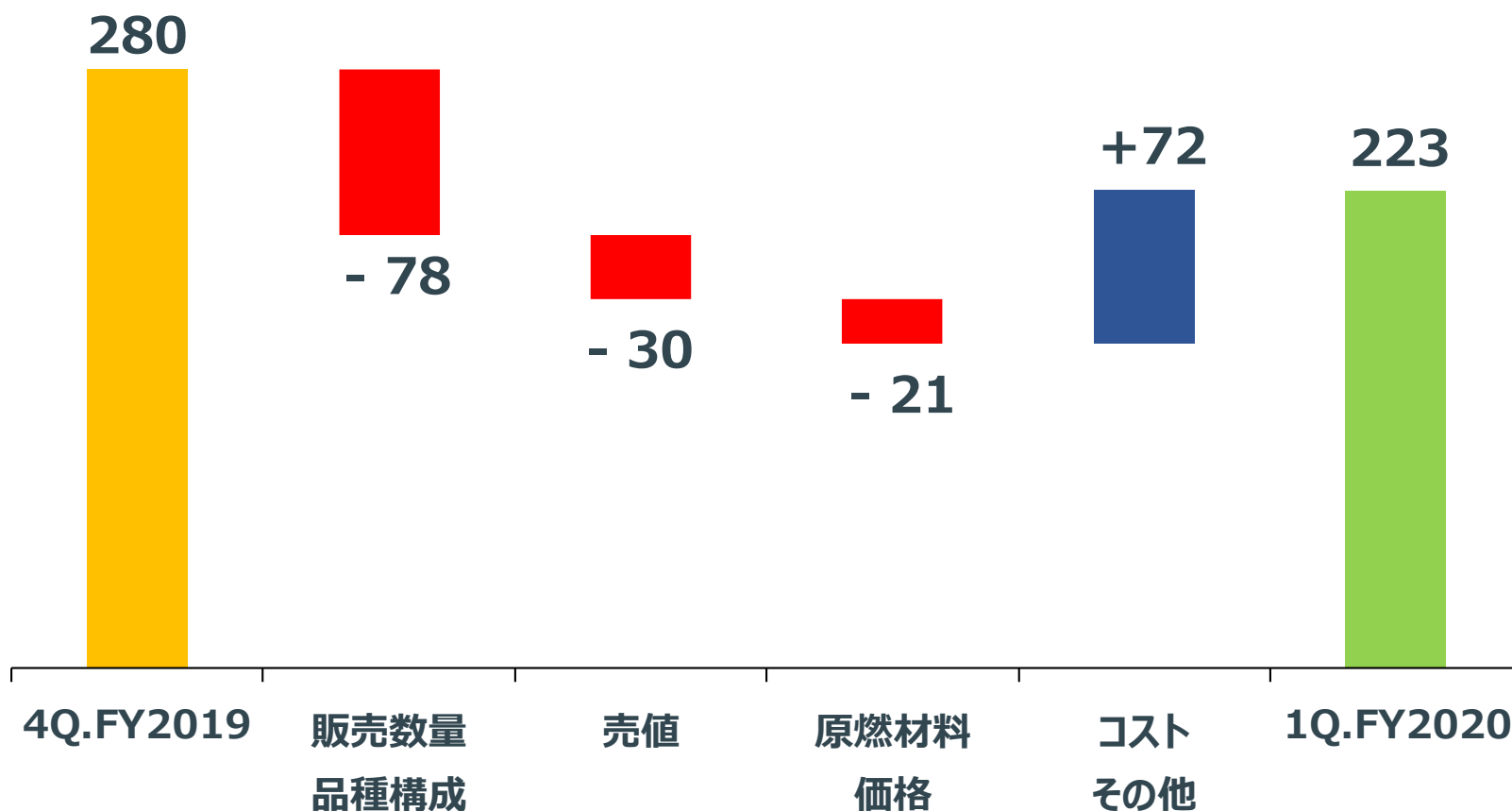
- 国内外のAGCグループ拠点周辺の医療機関等に防護衣などを提供

付属資料

営業利益増減要因分析(1Q.FY2020 vs. 4Q.FY2019)

前四半期比 57 億円減益

(億円)



売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

		日本・ アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計	
ガラス	建築用ガラス	1Q.FY2020	291	99	412	-	801
		1Q.FY2019	284	112	461	-	857
	自動車ガラス	1Q.FY2020	465	160	264	-	889
		1Q.FY2019	528	175	298	-	1,001
		1Q.FY2020	756	259	675	3	1,693
		1Q.FY2019	811	287	760	4	1,861
電子		1Q.FY2020	620	48	3	22	692
	1Q.FY2019	516	40	2	36	594	
化学品		1Q.FY2020	924	83	132	4	1,142
	1Q.FY2019	938	101	84	3	1,127	
セラミックス・その他		1Q.FY2020	76	-	-	121	197
	1Q.FY2019	76	-	-	109	185	
消去		1Q.FY2020	-	-	-	▲ 150	▲ 150
	1Q.FY2019	-	-	-	▲ 152	▲ 152	
合計		1Q.FY2020	2,375	390	810	-	3,575
	1Q.FY2019	2,341	428	847	-	3,616	

数量・価格動向

					2019				2020	
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
前年同四半期比 (YoY)										
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量		-1割弱	横ばい	-数%	横ばい	微増	
			価格(日)		+1桁半ば	+1桁半ば	微増	微増	+数%	
		北米	数量		-数%	+1桁半ば	+数%	-1割弱	-1割弱	
			価格		横ばい	-数%	-1桁半ば	-1桁半ば	-1割弱	
		欧州	数量		微増	+数%	微減	微減	横ばい	
			価格		-数%	微減	-数%	-1割弱	-1割強	
		自動車用生産台数 (IHS Markit 4/27データより)	日本	数量		+0%	+5%	+5%	-10%	-7%
			北米	数量		-3%	-3%	-1%	-9%	-10%
	欧州		数量		-5%	-8%	-0%	-4%	-19%	
電子	ディスプレイパネル需要* (Omdia社)	グローバル	面積		+6%	+6%	+3%	+4%	-5%	
市況実績値										
化学品	東南アジアクロアリ (Bloomberg)	苛性ソーダ	価格	USD/MT	384	390	340	316	293	
			PVC	価格	USD/MT	882	847	872	832	845
			エチレン	価格	USD/MT	985	798	787	742	645

*Source : Omdia, display-long-term-demand-forecast-tracker-pivot-q4-2019.

Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

(億円)

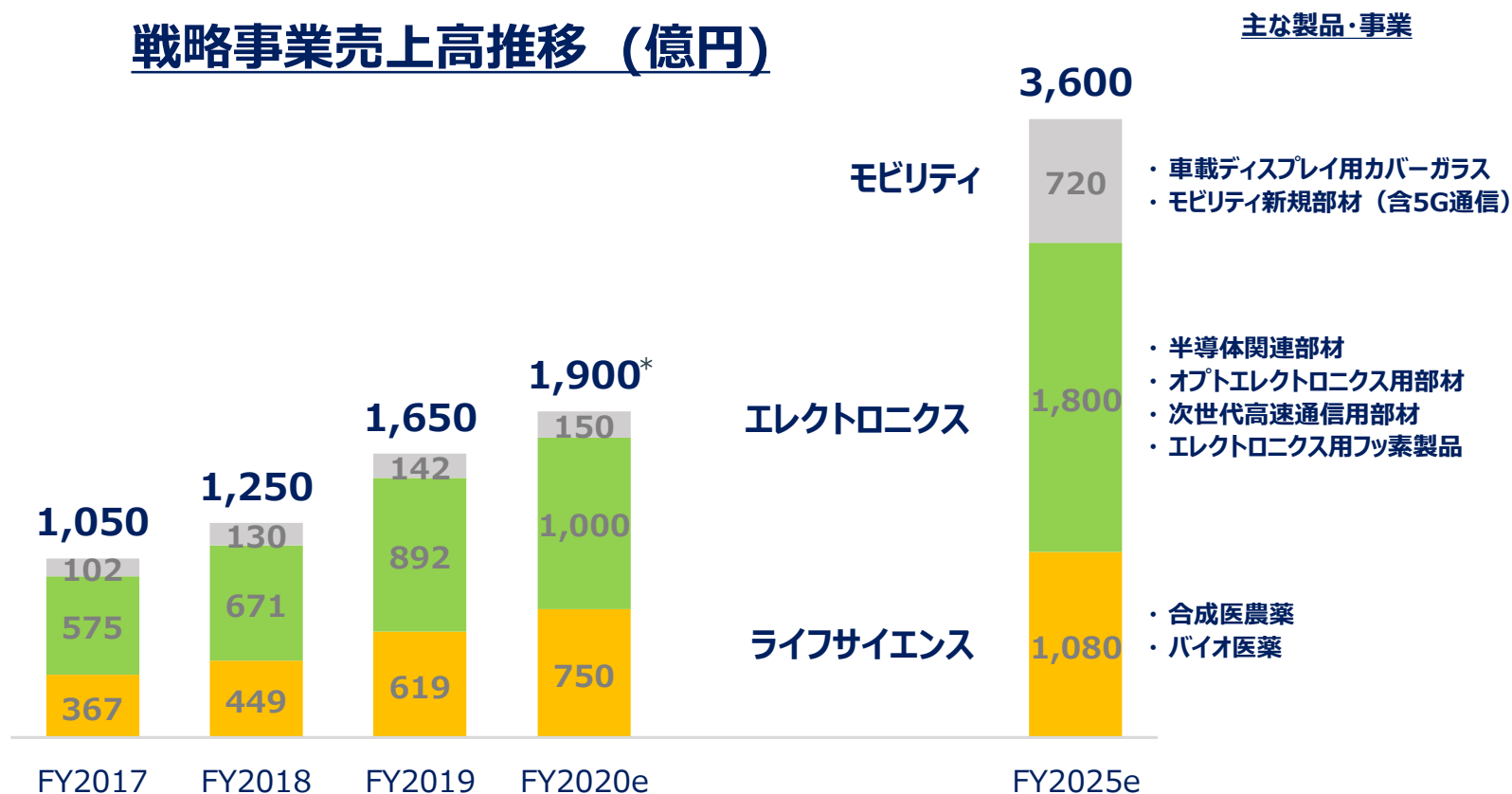
ガラス	1Q.18	2Q.18	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20
売上高	1,943	1,934	1,868	1,953	1,861	1,890	1,840	1,837	1,693
建築用ガラス	867	879	878	964	857	890	875	905	801
自動車用ガラス	1,073	1,052	987	985	1,001	996	963	923	889
(セグメント間)	3	3	3	4	4	5	3	9	3
営業利益	77	78	29	44	35	39	23	▲ 4	▲ 26

電子	1Q.18	2Q.18	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20
売上高	560	603	646	670	594	652	761	760	692
ディスプレイ	419	424	431	436	398	441	449	460	433
電子部材	135	150	184	199	160	185	283	276	238
(セグメント間)	6	29	30	34	36	26	28	24	22
営業利益	57	41	61	78	25	35	109	87	89

化学品	1Q.18	2Q.18	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20
売上高	1,148	1,150	1,252	1,295	1,127	1,158	1,197	1,275	1,142
クローラルカリ・ウレタン	747	744	848	827	705	710	745	768	695
フッ素・スペシャリティ	287	285	304	328	287	299	302	311	283
ライフサイエンス	110	107	96	136	132	146	147	193	160
(セグメント間)	3	13	3	3	3	4	4	3	4
営業利益	170	167	166	209	144	118	177	191	151

■ COVID-19感染拡大の影響は限定的で順調に業績拡大する見通し

戦略事業売上高推移 (億円)



戦略事業 営業利益	120	210	265	300*	900 (億円)
営業利益貢献比率	10%	17%	26%	—	40%

* 2020年2月5日発表数値から見直しを行っています。

		IFRS				
		15/12	16/12	17/12	18/12	19/12
売上高	百万円	1,326,293	1,282,570	1,463,532	1,522,904	1,518,039
営業利益	百万円	71,172	96,292	119,646	120,555	101,624
営業利益率	%	5.4	7.5	8.2	7.9	6.7
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	42,906	47,438	69,225	89,593	44,434
自己資本当期純利益率 (ROE) *1	%	3.9%	4.3%	6.1%	7.7%	3.9%
総資産営業利益率 (ROA) *2	%	3.5%	4.8%	5.7%	5.4%	4.4%
自己資本比率	%	55%	55%	53%	51%	50%
D/E (有利子負債・純資産比率)	倍	0.40	0.37	0.38	0.43	0.47
営業CF/有利子負債	倍	0.40	0.47	0.42	0.35	0.32
一株当たり当期純利益 (EPS) *3	円	185.60	205.14	302.12	399.51	200.85
一株当たり配当金	円	90	90	105	115	120
EBITDA *4	百万円	228,381	195,767	249,880	259,425	231,857
為替レート (期中平均)	円/ドル	121.05	108.84	112.19	110.43	109.05
	円/ユーロ	134.31	120.33	126.66	130.42	122.07

*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計 (期中平均)

*2 営業利益/総資産 (期中平均)

*3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

*4 EBITDA (支払利息・税金・減価償却費控除前利益) = 税引前利益 + 減価償却費 + 支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください。 https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

発表日	内容
2月4日	CDPから水リスクへの取り組みが評価され最高評価「Water Security A List 2019」に選定
2月26日	国立競技場で環境対応型新冷媒使用の新型ターボ冷凍機が採用
3月2日	「健康経営優良法人2020ホワイト500」に認定
3月3日	女性活躍推進に優れた企業として「なでしこ銘柄」に選定
3月11日	AGCの建築用ガラスが国立競技場に採用
3月12日	「パレットIoTシステム」を導入し物流を効率化
3月17日	遺伝子・細胞治療に取り組むMolecular Medicine S.p.A.の株式公開買付を決定
3月19日	AGCがスタンフォード大学経営大学院のケーススタディに採用
4月3日	Molecular Medicine S.p.A.の株式公開買付に関する公開買付書類をイタリア証券当局に提出
4月7日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月8日	太陽光発電 ガラス が高輪ゲートウェイ駅 に採用
5月14日	A G C、AdaptVac社から新型コロナウイルス向けワクチンの製造を受託
5月14日	A G C が製造を受託するCytoDyn社の新型コロナウイルス向け治療薬候補「レロンリマブ」が、米国での臨床試験進行



Your Dreams, Our Challenge

END

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。